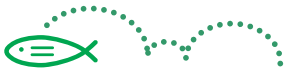


# さんま通信

夏

厚生中央病院だより 第30号 2012年



## ご挨拶

事務部長 西 哲広

皆さんこんにちは。私は、本年4月に厚生中央病院の設立母体であります全国土木建築国民健康保険組合からの異動により、当院に着任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私の朝は、満員電車で揺られ恵比寿駅到着後、動く歩道経由で恵比寿ガーデンプレイス前の交差点に立つと同時に、歌手狩人の歌で有名な右前方「アメリカ橋」のやや上空を見ます。するとそこに現れる、薄緑色字の「厚生中央病院」を擁した我が病院建物を望み、「今日も一日が始まるぞ」と認識を新たにします。その後、電車の音を聞きながらアメリカ橋を渡り、カラスと鳩のさえずる恵比寿南公園を右手に見て歩き、エプロン姿のボランティアさんにお世話いただいている病院脇の花壇の各種ハーブと色とりどりの花に心を癒されながら病院入口に着きます。そして、きびきびとした警備員の方と挨拶を交わし、待合ロビーの患者さんの様子を見た後、事務棟へ入り勤務に就きます。

ところで、思い返せば当院は、我が国保組合の組合員とその家族及び地域の方々のご健康と福祉に貢献することを目的として、昭和34年5月に総合病院として開院後、東京都の恵比寿地区の整備計画に伴い、地域住民並びに関係各位のご理解とご協力のもと、隣接する現在の場所に移転し、平成4年6月に新病院として開院しました。したがって、今年新病院開

院20周年を無事迎えることとなりましたが、これも偏に地元目黒区役所、目黒三田町内会、建設業界など病院関係者のご支援によるものと、心から感謝申し上げます。

しかしながら、バブル崩壊後の日本経済の長期低迷、社会保障費抑制策、高齢者医療制度の導入、更には少子・高齢化、疾病構造の変化などが国の医療及び当院を取り巻く環境は大きく変化しました。こうした中で、櫻井院長の陣頭指揮の下、地域医療連携の強化、電話予約センターの設置、電子カルテの導入、7対1看護体制の確立など、医療供給体制の充実と経営改善に病院をあげて取り組んでまいりました。

また、皆様の記憶にも新しい昨年3月11日の大震災、津波、原発事故に果たした医療機関の役割は大きく、更に今後予想される大規模災害に対しましても、地域の中核病院として当院も積極的に対応することが必要であります。

これからも、病院職員が一体となり、安全で質の高い温かな医療に努め、我が国保組合の組合員とその家族並びに地域住民の方々にご信頼され頼られる厚生中央病院を目指してまいりますので、一層のご理解・ご支援をお願い申し上げます。また、私も微力ながら誠心誠意努力いたしますので、併せてよろしくお願い申し上げます。

## 目次 contents

ご挨拶 ..... 1

認知症ドックのお知らせ ..... 2~3

新病院開院20周年記念祝賀会を開催しました  
第19回 健康セミナー報告 ... 4

どうして  
さんま通信なの？

目黒で野駈けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る！』  
当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

# 認知症ドックのお知らせ

総合内科副部長

北川 尚之

日本では社会構造の高齢化に伴い、認知症患者が急激に増加しています。特に85歳以上では4人に1人以上が認知症であると言われています。

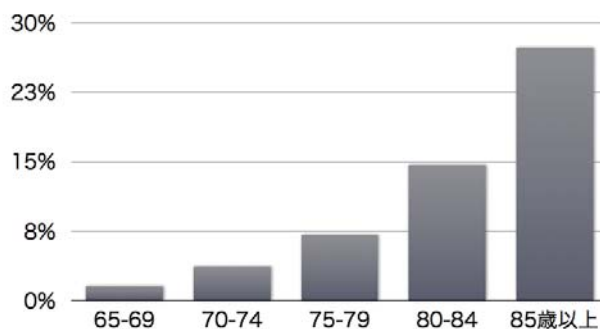
認知症とは脳の認知機能が障害されている状態を指す言葉であり、認知症の原因にはいくつかの病気があります。その中でもっとも多いのがアルツハイマー病であり、認知症の原因の半分以上を占めます。また、当院の認知症外来では初診患者の約2/3がアルツハイマー病と診断されています。テレビなどのメディアで紹介される認知症も多くの場合、アルツハイマー病を念頭に置いている場合が多いようです。

アルツハイマー病は、ある程度の高齢（多くは80歳以上）になってから症状が出現しますが、実は最近の研究では症状が出る10年以上前にすでに脳の中では病気が始まっていることがわかっています。ですから、患者さんが病院を受診される時点は病気の始まりではなく、すでにある程度進行した状態なのです。現在はアルツハイマー病の薬が何種類かありますが、それでも一度発症してしまうと進行を止めることは難しいのが現状です。ですから、他の病気と同様、認知症もまた予防が大変重要な病気というわけです。

当院では今まで人間ドック（2日コース）を受けていただいている方を対象に脳ドックをオプションとして行ってきましたが、7月よりこれに加え認知症ドックを行う予定

## 認知症を有する高齢者の割合

(平成4年調査)



です。脳ドックはMRIの撮影および結果をレポートとしてお渡しするだけでしたが、認知症ドックでは認知症の専門知識を習得した看護師による問診、脳のMRI撮影、そして最後に医師が結果を口頭でご説明します。問診では普段の生活習慣に加え、認知機能を調べるための簡単な検査を行います。また、MRIによって脳の萎縮や脳血管の動脈硬化の有無などを調べます。

こうした問診やMRIはあくまでスクリーニング検査であり、将来認知症を発症する危険を正確に判定することまではできません。ただ、こうしたドックを受けていただくことにより、認知症の予防のためにはどのようなことを普段から気をつければよいのか、あるいは日頃不安や疑問に思っていることに対してお答えするというのも、このドックの意義であると考えています。

まずは人間ドック（2日コース）のオプションとして、週2枠行う予定です。

## 認知症を有する人口推移

1994年の推計



問い合わせ先 厚生中央病院 健康管理センター  
03-3713-2141 (代表)



## 新病院開院20周年記念祝賀会を開催しました

平成4年6月、恵比寿地区再開発計画に伴い、現在の場所に移転してから20年を迎えることとなり、平成24年6月5日、新病院開院20周年記念祝賀会を開催いたしました。

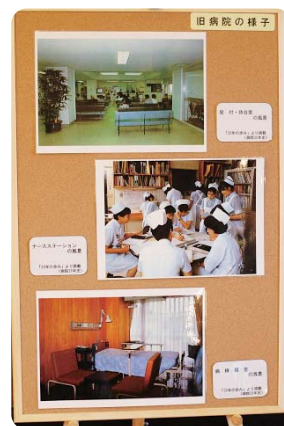
各界の方々に、ご祝福いただき盛宴であったことを、ここにご報告いたします。



院長挨拶



会場の様子



フォトギャラリー

## 第19回 健康セミナー報告

平成24年5月19日(土) 当院 講義室

「がんに関する最近の話題」と題し、7月から当院に着任した呼吸器・腫瘍内科 横山智央医師が、がんに関する最新の薬物療法から副作用の説明、さらにはがんの苦しみを予防したり和らげたりすることで、生活の質の向上を図る緩和医療について講演を行い、講演後は希望者に対して担当診療科の医師による個別の健康相談を実施しました。

今後とも地域の方々の健康管理に少しでもお役に立てるよう、健康セミナーの充実に努めてまいりますので、皆様のご参加をお待ちしております。



### 病院の理念

- ・私たちは、心の通った温もりを感じる医療を目指します。
- ・私たちは、組合被保険者ならびに地域の人々の健康と福祉に貢献します。
- ・私たちは、病院機能の充実を図り、サービス向上のため日々研鑽します。

### 基本方針

「健全な経営と安全で質の高い地域中核病院を創造する」

### 行動目標

- ・私たちは、患者さんから選ばれる病院を創り上げる。
- ・私たちは、効率的で質の高い安全な医療を構築する。
- ・私たちは、安心と誇りを持って働き、一番大切な人を受診させたい病院にする。

### 患者さんの権利

- ・最良の医療を受ける権利
- ・病気について、理解可能な言葉で説明を受ける権利とその説明に対して意見を述べる権利
- ・プライバシーが守られる権利
- ・転院の権利
- ・診療情報の開示を求める権利

### 患者さんの義務

- ・自己の療養に関して病院職員に協力する義務

